

## 1. 援助対象地域に住む子ども・住民の生活状況



南アフリカ中部、フリーステート州郊外の民家の様子。トタンや木材で手作りした簡易的な家屋が並ぶ。水道・ガス・電気が通っていない地区も未だに多く、学校まで徒歩で数時間かかる児童も多い。

平原のなかに学校が孤立しているため、本を持って来る移動図書館車は生徒のみならず、先生にも歓迎される。



アパルトヘイト政策下で強制的に居住地を指定され、農業など経済活動が困難な地域に現在も住まざるを得ない国民が非常に多い。

## 2. 援助対象地域の児童の生活状況



一見、学校支給の制服を着ていてきちんとしている様子だが、膝が抜けていたり、靴が破れていたり、困窮さは否めない。鉛筆はあっても、消しゴムや鉛筆削りを持っている児童は少ない。自宅では十分な食事が得られず、学校給食の一日一食のみで耐える児童も多い。



給食があるから通学するというのも現実。メニューはひよこ豆の水煮や白米が一般的。

7年生ぐらいが70人以上ひしめき合っている教室の様子。壊れた椅子や、そもそも椅子がなく地面に座りながら学習する児童もいる。

## 3. 図書室はあるが、図書のない小学校の様子



図書館車導入前の学校の様子。

(南ア中部フリーステート州郊外 Ramahutsche 小学校)

スペースはあるが中身がなく、いつのまにか物置と化してしまう図書室も少なくない。しかし教育熱心な先生がいることも事実で、移動図書館車による巡回は歓迎されている。